

旅手帳

かおるつるおか

山形県鶴岡市

TSURUOKA-CITY, YAMAGATA
SIGHTSEEING GUIDE BOOK

旅手帳 かおるつるおか

山形県鶴岡市



豊かな自然と歴史文化に彩られた鶴岡
その厳しくも美しい自然の中に
城下町の佇まいや、ゆつたりとした暮らし方に
そして、何よりも人々の心の中に
連綿と伝えられてきた記憶が
澄んだまま、色あせぬまま刻まれています

写すよりも鮮明に
季節の息吹　かおるつるおか
いにしえの風　かおるつるおか

語るよりも新鮮に

出羽三山

めぐり、つなぐ
千四百年の記憶



修験者は白衣を身につけて生まれかわりの旅に出ます
Photo / 羽黒町観光協会事務 山伏修行体験塾

羽黒山
414m

月山
1,984m

湯殿山
1,504m

命のめぐり
三関三渡 さんかんさんどの旅

日本列島を貫く奥羽山脈の中に、東北随一の霊場「出羽三山」があります。

出羽三山とは、山形県の中央にそびえる月山・羽黒山・湯殿山の総称で、伝説によれば約千四百年前、由良の浦に漂着した蜂子皇子（※1）はちこのおうじ）が、八乙女洞窟で乙女に観音の靈場を教えられ、三本足の靈鳥に導かれて羽黒山に登拝しました。

蜂子皇子は羽黒派古修験道の開祖で、難行苦行の後に羽黒権現を感じし、その後月山と湯殿山の権現に導かれついに三山を開山したといわれています。

古来より、高くて形のよい山はこうした山から魂を授かってこの世に生を受け、死後その山へ赴いて祖靈として鎮まるという山岳信仰は、今も息づいています。豊穣の源であり、神の宿る聖域とする出羽三山は、天照大神を中心と

月読命を祀る月山を中心とす

る出羽三山は、天照大神を祀

るお伊勢様と対をなし「陰と陽」「月と太陽」に見立てられ「西の伊勢参り・東の奥参り」と称され多くの参拝者を集めました。

明治まで、羽黒山は現世の人々に幸せを与える観世音菩薩、月山は死後の救済を約束する阿弥陀如来、湯殿山は生まれ変わりを約束する大日如来を本地仏とし、夏峰の道者は死者となつて羽黒山で現世を、月山で死後を、そして湯殿山へ辿りつき生まれ変わるという、山を運んだ者は、再び来ずには写真撮影禁止。

この山で体験したことは「語るなれ」「聞くなれ」と厳しく戒められた神秘の靈場ゆえ、心ひかれ一度足を運んだ者は、再び来ずにはいられないことから恋の山とも言われています。

は本殿や社殿がないというの

が大きな特徴といえます。

新しい生命を宿す御神体に裸足で登拝しますが、そこ

芭蕉も「絶じてこの山中の微細、行者の法式として他言することを禁す。よって筆をとどめてしまふ」と記したように、戒めは今も守られています。

語られぬ眞実をご自身で体験してください。

【山伏修行】羽黒派古修験道を今も顕現する山伏たち



修験道では、聖なる山に分け入り断食・水断ち・抖そう・南蛮いぶしななど「十界」といわれる生まれかわりのための難行苦行を行います。このような山の神靈を我が身に宿す修行を重ねた山伏たちを通じて、山岳信仰はふもとの人々に受け入れられてきましたのです。

鶴岡
DEEP!



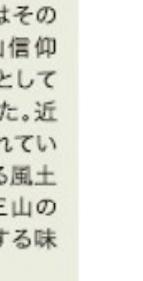
【宿坊】心のふるさとを感じる宿坊街



宿坊の魔除け「引綱」もCOOL!

羽黒山麓の手向宿坊街はその古い町並みと共に、三山信仰者の歴史を伝え、参籠所としての使命を果たしてきました。近年は観光としても注目されていますが、その背景に広がる風土と文化を凝縮した出羽三山の精進料理は世界も絶賛する味を誇っています。

芭岡
DEEP!



美しい高山植物が群生する絶景の弥陀ヶ原をはるかに越え、辿り着く月山山頂は万年雪を戴いています。御室（おむろ）と呼ばれたその場所に現在の月山神社本宮があります。吹きつける風は強く大きな社殿を建てることができないため、自然石を積んだ石垣の中に一メートル四方ほどの小さな祠が造られました。祭神は月読命（つくよみのみこと）『古事記』では「夜の食国（お

すくに）を司る』神、「羽黒山縁起」という古い文書には「月山に阿弥陀如来が現れた」とあります。夜を支配する神と死者の國の仮のいますところ、それゆえ月山は死者たちの鎮まる世界といわれています。神社は水を司る農業神として、また、航海漁労の神として庶民の信仰を集めています。

雲の峰
幾つ崩れて
月の山

月山神社 DATA MAP E-4
時 5:00～17:00(7月1日～9月15日)
休 期間中なし 価 500円(本宮破格)
交 JR鶴岡駅からバス2時間
月山八合目下車、徒歩2時間30分
電 090-8921-9151

湯殿山神社 DATA MAP E-4
時 8:30～16:00(本宮参拝は5月上旬～11月上旬)
休 期間中なし 価 500円(本宮破格) Pあり
交 JR鶴岡駅からバス1時間30分
湯殿山下車、参拝専用バス5分
・月山ICから車20分
・湯殿山ICから車20分
電 0235-54-6133

湯殿山は月山西南山腹に連なるなだらかな稜線の山で、古来より三山の奥の院として多くの修験者や参拝者を集めています。生まれ変わりの地、宇宙とともにえられていったことから人が手を加えることを禁じられてきたために、湯殿山神社

は本殿や社殿がないというの

が大きな特徴といえます。

新しい生命を宿す御神体に裸足で登拝しますが、そこ

は写真撮影禁止。

芭蕉も「絶じてこの山中の微細、行者の法式として他言することを禁す。よって筆をとどめてしまふ」と記したように、戒めは今も守られています。

語られぬ眞実をご自身で体験してください。

月山神社 がっさんじんじや

頂上より雲海を望む古社



■参拝／お祓いを受け人形（ひとがた）の紙に息を吹きかけ、水に流します。その後、御祓守と登拝認定証がいただけます（参拝料500円）。また月山本宮にしかない、お守り「つき守」「身代わり守」等があり参拝の記念に授かることができます。



鶴岡
DEEP!
卯歳は
月山の御縁年

御田原参籠所近くには天を仰ぐ大きな兎の石像が置かれています。月山は卯年に開かれたため、兎は月山神のお使い、あるいは月の精とされてきました。兎には應運から逃れる力があるといわれています。



湯殿山神社 ゆどのさんじんじや

神秘的な霊場、出羽三山奥の院



鶴岡
DEEP!
現代に生きる
信仰の証

芭蕉も「絶じてこの山中の微細、行者の法式として他言することを禁す。よって筆をとどめてしまふ」と記したように、戒めは今も守られています。

語られぬ眞実をご自身で体験してください。

この世に生を受けたもの全てを救わんと身を捧げた行者たち



湯殿山總本寺
瀧水寺大日坊 MAP D-3

りゅうすいじ だいにちは

大同二年(807)に弘法大師空海が湯殿山大権現を大網の地に勧請(かんじょう)して開創した由緒あるお寺です。湯殿山が女人禁制であったため、沢八万八千仏を祀って女人の湯殿山礼拝所として建立したのが寺の源となっています。

**真如
海上人**



湯殿山 注連寺 MAP D-3

ちゅうれん

弘法大師が湯殿山の本地仏・金胎両部の大日如来の御尊像を刻み安置した天長二年(825)が注連寺の開基と云われ、湯殿山信仰の根本修行道場として繁栄を極めました。花の色が変化する御神木のかスミザクラは、七五三掛(しめかけ)桜と呼ばれ美しさで知られています。

湯殿山注連寺DATA

● 5月～10月/9:00～17:00
11月～4月/9:00～16:00

● 年中無休 箱500円(押綱料) Pあり

● 庄内あさひICから車15分
・月山ICから車40分
・JR鶴岡駅から湯殿山行バス45分
大網下車徒歩30分

● ☎0235-54-6536

ミュージック・クリークガイド・ジャパン

鶴岡 DEEP!

天井絵画 ★
屏 口 ★

自らの眼を
捧げ祈禱した
恵眼院
鉄門海上人

鶴岡市大宝寺に生まれた鉄門海上人は、江戸で眼病が流行した際に自分の左目をえぐり取って隅田川に投じて祈念したことから、京都の御室御所より「恵眼院様」の院号を授かりました。徳の高いその生涯には數々の逸話が残されています。

※鉄門海上人は撮影禁止となっています。



鶴岡の即身仏は『海』の文字を持つ一世修行人(生涯修行のみを行なう人)で、疫病や飢えといった苦しみから人々を救うために、この世の苦悩を一身に背負って山に籠りました。厳しい難行苦行で体内から脂肪や水分を落とし、自ら朽ちない身となって衆生救濟を祈りながら土中入定し、即身成仏したといいます。

お問い合わせ先 ■ あさひねら報光資金 ☎ 0235-53-3411



お問い合わせ先 翔陽町親光協会 0335-62-4727

山戸能と山五十川歌舞伎

やまとのかずらひ

夕映えに包まれる夕陽能

鶴岡市
伝統芸能
MAP

かつて山戸村といわれた温海地区・山五十川の集落では「山戸能」と「山五十川歌舞伎」という二つの伝統芸能を一体として守り続けています。地域の文献によれば山戸能は貞観八年(866)に「謡」、「切り能」、「恋慕の舞」、寛永年間には天龍上人から「座揃囃子」「道行きの囃子」を伝えられたとされます。

明治三十年頃までは百二十番ほどの演目を伝えていたが、現在では内九番だけが伝えられ、毎年一曲ずつ演じられています。山戸能は全国でも珍しい特色を持ち、櫛引地域の黒川能とも深い関わりがあるようです。

一方、能と一緒に河内神社に奉納する神事として三百年の伝説をもつ山五十川歌舞伎は、古文書や伝説によると桃山時代後期の天正・文禄年間にこの地芝居が生れ、本格的歌舞伎となつたのが江戸時代中期の宝永年間と推定されています。

- 山戸能・山五十川歌舞伎DATA** MAP B-3
- 5月3日(春の祭典)
 - 11月23日(秋の祭典)
 - ※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催
 - JRあつみ温泉駅から車20分
 - 山五十川下車徒歩10分
 - いらがわICから車5分
 - 朝日まほろばICから車1時間20分
 - 山五十川公民館
 - 山五十川古典芸能収蔵館
 - 0235-45-2949
 - あつみ観光協会
 - 0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

山五十川公民館

山五十川古典芸能収蔵館

0235-45-2949

あつみ観光協会

0235-43-3547

MAP B-3

5月3日(春の祭典)

11月23日(秋の祭典)

※山戸能のみ8月下旬道の駅「あつみ」しゃりんで「夕能」を開催

JRあつみ温泉駅から車20分

山五十川下車徒歩10分

いらがわICから車5分

朝日まほろばICから車1時間20分

徳川家の外交官だった!

庄内酒井家
初代

酒井忠次



—徳川十六将圖—
酒井左衛門尉忠次像(致道博物館蔵)
大永七年(1527)~慶長元年(1596)

愛知県岡崎の井田城主酒井忠善の嫡男として京都に生まれる。十歳で家督を継ぎ、十六歳の時に徳川家康の父・松平広忠に仕えた。徳川四天王・徳川十六神将ともに筆頭とされる。

ごちそう奉行



武田氏が滅亡すると信長は家康に駿河を与えることとし、懃労をかねて富士山見物に。その際、酒井忠次は家康側の御馳走奉行として信長をもてなし、忠次のこれまでの戦功に対し信長から真光の大刀と黄金二百両を与えられています。写真は主君・家康を接待した膳部。(致道博物館蔵)



酒井忠次所用の具足
[朱塗黒糸威二枚胴具足]
—桃山時代—
(致道博物館蔵)

胴丸形式を一步進めた桃山時代の典型的な具足。とても簡素ですが、全身を朱漆塗とし黒糸で威した二枚型で左腰に鼻紙入れがついています。兜は筋壳で金箔鹿角を脇立てとしたもので、全体に製作も良く、徳川四天王の一人として活躍した忠次の人物が偲ばれる貴重な具足です。

徳川家康の叔父にあたる酒井忠次は、天文十八年(1549)元信(後の家康)の身を気遣い三河国内の政務に尽力する。今川義元が負死すると、三河に家康を迎えて補佐。三河における今川の勢力を放逐、一向揆を鎮圧するなどの功により吉田城(現在の豊橋市)を与えられた。酒井忠次は、姉川・三方原・長篠・小牧長久手の各戦役に活躍し、また家康の外交官と向一揆を鎮圧するなどとの功に与えられた。

酒井忠次は、姉川・三方原・長篠で評定を開き、酒井忠次が武田勢を吉田城下で酒井七騎聚が奮戦して、長篠に追いやった。織田信長・徳川家康軍は、長篠で評定を開き、酒井忠次が進言した鳩の巣山城急襲作戦を実行。忠次は、先鋒を命じられ急襲作戦は成功し、あわせて織田軍の新兵器銃撃戦で長篠の戦いに勝利した。

天正十四年(1586)には徳川家康に従つて京都に上り、豊臣秀吉から近江に千石の地を与えられ、家中では最高位の從四位下・左衛門督に叙位任官された。天正十六年、吉田城を修念院に過ごし、七十歳で逝去。京都・知恩院(先求院)に葬られ、後に鶴岡酒井家墓所に分骨される。明治十年(1877)鶴ヶ岡城址に莊内神社が創建され二代家次、三代忠勝とともに合祀された。

父は、徳川家康に召され、家康の諱一字を拝領し、忠次の一字を継いで家次と称した。忠勝は、慶長十四年(1609)將軍・徳川秀忠に召されて元服し、諱一字を拝領し、從五位下宮内大輔に任ぜられた。

下総国碓井(千葉県)から高崎五万石に転封になり、慶長十九年(1614)に大坂冬の陣、翌年(1615)に大坂冬の陣、翌年(1616)に大坂冬の陣、翌年(1617)に大坂冬の陣、翌年(1618)に大坂冬の陣、翌年(1619)に大坂冬の陣、翌年(1620)に大坂冬の陣、翌年(1621)に大坂冬の陣、翌年(1622)に大坂冬の陣、翌年(1623)に大坂冬の陣、翌年(1624)に大坂冬の陣、翌年(1625)に大坂冬の陣、翌年(1626)に大坂冬の陣、翌年(1627)に大坂冬の陣、翌年(1628)に大坂冬の陣、翌年(1629)に大坂冬の陣、翌年(1630)に大坂冬の陣、翌年(1631)に大坂冬の陣、翌年(1632)に大坂冬の陣、翌年(1633)に大坂冬の陣、翌年(1634)に大坂冬の陣、翌年(1635)に大坂冬の陣、翌年(1636)に大坂冬の陣、翌年(1637)に大坂冬の陣、翌年(1638)に大坂冬の陣、翌年(1639)に大坂冬の陣、翌年(1640)に大坂冬の陣、翌年(1641)に大坂冬の陣、翌年(1642)に大坂冬の陣、翌年(1643)に大坂冬の陣、翌年(1644)に大坂冬の陣、翌年(1645)に大坂冬の陣、翌年(1646)に大坂冬の陣、翌年(1647)に大坂冬の陣、翌年(1648)に大坂冬の陣、翌年(1649)に大坂冬の陣、翌年(1650)に大坂冬の陣、翌年(1651)に大坂冬の陣、翌年(1652)に大坂冬の陣、翌年(1653)に大坂冬の陣、翌年(1654)に大坂冬の陣、翌年(1655)に大坂冬の陣、翌年(1656)に大坂冬の陣、翌年(1657)に大坂冬の陣、翌年(1658)に大坂冬の陣、翌年(1659)に大坂冬の陣、翌年(1660)に大坂冬の陣、翌年(1661)に大坂冬の陣、翌年(1662)に大坂冬の陣、翌年(1663)に大坂冬の陣、翌年(1664)に大坂冬の陣、翌年(1665)に大坂冬の陣、翌年(1666)に大坂冬の陣、翌年(1667)に大坂冬の陣、翌年(1668)に大坂冬の陣、翌年(1669)に大坂冬の陣、翌年(1670)に大坂冬の陣、翌年(1671)に大坂冬の陣、翌年(1672)に大坂冬の陣、翌年(1673)に大坂冬の陣、翌年(1674)に大坂冬の陣、翌年(1675)に大坂冬の陣、翌年(1676)に大坂冬の陣、翌年(1677)に大坂冬の陣、翌年(1678)に大坂冬の陣、翌年(1679)に大坂冬の陣、翌年(1680)に大坂冬の陣、翌年(1681)に大坂冬の陣、翌年(1682)に大坂冬の陣、翌年(1683)に大坂冬の陣、翌年(1684)に大坂冬の陣、翌年(1685)に大坂冬の陣、翌年(1686)に大坂冬の陣、翌年(1687)に大坂冬の陣、翌年(1688)に大坂冬の陣、翌年(1689)に大坂冬の陣、翌年(1690)に大坂冬の陣、翌年(1691)に大坂冬の陣、翌年(1692)に大坂冬の陣、翌年(1693)に大坂冬の陣、翌年(1694)に大坂冬の陣、翌年(1695)に大坂冬の陣、翌年(1696)に大坂冬の陣、翌年(1697)に大坂冬の陣、翌年(1698)に大坂冬の陣、翌年(1699)に大坂冬の陣、翌年(1700)に大坂冬の陣、翌年(1701)に大坂冬の陣、翌年(1702)に大坂冬の陣、翌年(1703)に大坂冬の陣、翌年(1704)に大坂冬の陣、翌年(1705)に大坂冬の陣、翌年(1706)に大坂冬の陣、翌年(1707)に大坂冬の陣、翌年(1708)に大坂冬の陣、翌年(1709)に大坂冬の陣、翌年(1710)に大坂冬の陣、翌年(1711)に大坂冬の陣、翌年(1712)に大坂冬の陣、翌年(1713)に大坂冬の陣、翌年(1714)に大坂冬の陣、翌年(1715)に大坂冬の陣、翌年(1716)に大坂冬の陣、翌年(1717)に大坂冬の陣、翌年(1718)に大坂冬の陣、翌年(1719)に大坂冬の陣、翌年(1720)に大坂冬の陣、翌年(1721)に大坂冬の陣、翌年(1722)に大坂冬の陣、翌年(1723)に大坂冬の陣、翌年(1724)に大坂冬の陣、翌年(1725)に大坂冬の陣、翌年(1726)に大坂冬の陣、翌年(1727)に大坂冬の陣、翌年(1728)に大坂冬の陣、翌年(1729)に大坂冬の陣、翌年(1730)に大坂冬の陣、翌年(1731)に大坂冬の陣、翌年(1732)に大坂冬の陣、翌年(1733)に大坂冬の陣、翌年(1734)に大坂冬の陣、翌年(1735)に大坂冬の陣、翌年(1736)に大坂冬の陣、翌年(1737)に大坂冬の陣、翌年(1738)に大坂冬の陣、翌年(1739)に大坂冬の陣、翌年(1740)に大坂冬の陣、翌年(1741)に大坂冬の陣、翌年(1742)に大坂冬の陣、翌年(1743)に大坂冬の陣、翌年(1744)に大坂冬の陣、翌年(1745)に大坂冬の陣、翌年(1746)に大坂冬の陣、翌年(1747)に大坂冬の陣、翌年(1748)に大坂冬の陣、翌年(1749)に大坂冬の陣、翌年(1750)に大坂冬の陣、翌年(1751)に大坂冬の陣、翌年(1752)に大坂冬の陣、翌年(1753)に大坂冬の陣、翌年(1754)に大坂冬の陣、翌年(1755)に大坂冬の陣、翌年(1756)に大坂冬の陣、翌年(1757)に大坂冬の陣、翌年(1758)に大坂冬の陣、翌年(1759)に大坂冬の陣、翌年(1760)に大坂冬の陣、翌年(1761)に大坂冬の陣、翌年(1762)に大坂冬の陣、翌年(1763)に大坂冬の陣、翌年(1764)に大坂冬の陣、翌年(1765)に大坂冬の陣、翌年(1766)に大坂冬の陣、翌年(1767)に大坂冬の陣、翌年(1768)に大坂冬の陣、翌年(1769)に大坂冬の陣、翌年(1770)に大坂冬の陣、翌年(1771)に大坂冬の陣、翌年(1772)に大坂冬の陣、翌年(1773)に大坂冬の陣、翌年(1774)に大坂冬の陣、翌年(1775)に大坂冬の陣、翌年(1776)に大坂冬の陣、翌年(1777)に大坂冬の陣、翌年(1778)に大坂冬の陣、翌年(1779)に大坂冬の陣、翌年(1780)に大坂冬の陣、翌年(1781)に大坂冬の陣、翌年(1782)に大坂冬の陣、翌年(1783)に大坂冬の陣、翌年(1784)に大坂冬の陣、翌年(1785)に大坂冬の陣、翌年(1786)に大坂冬の陣、翌年(1787)に大坂冬の陣、翌年(1788)に大坂冬の陣、翌年(1789)に大坂冬の陣、翌年(1790)に大坂冬の陣、翌年(1791)に大坂冬の陣、翌年(1792)に大坂冬の陣、翌年(1793)に大坂冬の陣、翌年(1794)に大坂冬の陣、翌年(1795)に大坂冬の陣、翌年(1796)に大坂冬の陣、翌年(1797)に大坂冬の陣、翌年(1798)に大坂冬の陣、翌年(1799)に大坂冬の陣、翌年(1800)に大坂冬の陣、翌年(1801)に大坂冬の陣、翌年(1802)に大坂冬の陣、翌年(1803)に大坂冬の陣、翌年(1804)に大坂冬の陣、翌年(1805)に大坂冬の陣、翌年(1806)に大坂冬の陣、翌年(1807)に大坂冬の陣、翌年(1808)に大坂冬の陣、翌年(1809)に大坂冬の陣、翌年(1810)に大坂冬の陣、翌年(1811)に大坂冬の陣、翌年(1812)に大坂冬の陣、翌年(1813)に大坂冬の陣、翌年(1814)に大坂冬の陣、翌年(1815)に大坂冬の陣、翌年(1816)に大坂冬の陣、翌年(1817)に大坂冬の陣、翌年(1818)に大坂冬の陣、翌年(1819)に大坂冬の陣、翌年(1820)に大坂冬の陣、翌年(1821)に大坂冬の陣、翌年(1822)に大坂冬の陣、翌年(1823)に大坂冬の陣、翌年(1824)に大坂冬の陣、翌年(1825)に大坂冬の陣、翌年(1826)に大坂冬の陣、翌年(1827)に大坂冬の陣、翌年(1828)に大坂冬の陣、翌年(1829)に大坂冬の陣、翌年(1830)に大坂冬の陣、翌年(1831)に大坂冬の陣、翌年(1832)に大坂冬の陣、翌年(1833)に大坂冬の陣、翌年(1834)に大坂冬の陣、翌年(1835)に大坂冬の陣、翌年(1836)に大坂冬の陣、翌年(1837)に大坂冬の陣、翌年(1838)に大坂冬の陣、翌年(1839)に大坂冬の陣、翌年(1840)に大坂冬の陣、翌年(1841)に大坂冬の陣、翌年(1842)に大坂冬の陣、翌年(1843)に大坂冬の陣、翌年(1844)に大坂冬の陣、翌年(1845)に大坂冬の陣、翌年(1846)に大坂冬の陣、翌年(1847)に大坂冬の陣、翌年(1848)に大坂冬の陣、翌年(1849)に大坂冬の陣、翌年(1850)に大坂冬の陣、翌年(1851)に大坂冬の陣、翌年(1852)に大坂冬の陣、翌年(1853)に大坂冬の陣、翌年(1854)に大坂冬の陣、翌年(1855)に大坂冬の陣、翌年(1856)に大坂冬の陣、翌年(1857)に大坂冬の陣、翌年(1858)に大坂冬の陣、翌年(1859)に大坂冬の陣、翌年(1860)に大坂冬の陣、翌年(1861)に大坂冬の陣、翌年(1862)に大坂冬の陣、翌年(1863)に大坂冬の陣、翌年(1864)に大坂冬の陣、翌年(1865)に大坂冬の陣、翌年(1866)に大坂冬の陣、翌年(1867)に大坂冬の陣、翌年(1868)に大坂冬の陣、翌年(1869)に大坂冬の陣、翌年(1870)に大坂冬の陣、翌年(1871)に大坂冬の陣、翌年(1872)に大坂冬の陣、翌年(1873)に大坂冬の陣、翌年(1874)に大坂冬の陣、翌年(1875)に大坂冬の陣、翌年(1876)に大坂冬の陣、翌年(1877)に大坂冬の陣、翌年(1878)に大坂冬の陣、翌年(1879)に大坂冬の陣、翌年(1880)に大坂冬の陣、翌年(1881)に大坂冬の陣、翌年(1882)に大坂冬の陣、翌年(1883)に大坂冬の陣、翌年(1884)に大坂冬の陣、翌年(1885)に大坂冬の陣、翌年(1886)に大坂冬の陣、翌年(1887)に大坂冬の陣、翌年(1888)に大坂冬の陣、翌年(1889)に大坂冬の陣、翌年(1890)に大坂冬の陣、翌年(1891)に大坂冬の陣、翌年(1892)に大坂冬の陣、翌年(1893)に大坂冬の陣、翌年(1894)に大坂冬の陣、翌年(1895)に大坂冬の陣、翌年(1896)に大坂冬の陣、翌年(1897)に大坂冬の陣、翌年(1898)に大坂冬の陣、翌年(1899)に大坂冬の陣、翌年(1900)に大坂冬の陣、翌年(1901)に大坂冬の陣、翌年(1902)に大坂冬の陣、翌年(1903)に大坂冬の陣、翌年(1904)に大坂冬の陣、翌年(1905)に大坂冬の陣、翌年(1906)に大坂冬の陣、翌年(1907)に大坂冬の陣、翌年(1908)に大坂冬の陣、翌年(1909)に大坂冬の陣、翌年(1910)に大坂冬の陣、翌年(1911)に大坂冬の陣、翌年(1912)に大坂冬の陣、翌年(1913)に大坂冬の陣、翌年(1914)に大坂冬の陣、翌年(1915)に大坂冬の陣、翌年(1916)に大坂冬の陣、翌年(1917)に大坂冬の陣、翌年(1918)に大坂冬の陣、翌年(1919)に大坂冬の陣、翌年(1920)に大坂冬の陣、翌年(1921)に大坂冬の陣、翌年(1922)に大坂冬の陣、翌年(1923)に大坂冬の陣、翌年(1924)に大坂冬の陣、翌年(1925)に大坂冬の陣、翌年(1926)に大坂冬の陣、翌年(1927)に大坂冬の陣、翌年(1928)に大坂冬の陣、翌年(1929)に大坂冬の陣、翌年(1930)に大坂冬の陣、翌年(1931)に大坂冬の陣、翌年(1932)に大坂冬の陣、翌年(1933)に大坂冬の陣、翌年(1934)に大坂冬の陣、翌年(1935)に大坂冬の陣、翌年(1936)に大坂冬の陣、翌年(1937)に大坂冬の陣、翌年(1938)に大坂冬の陣、翌年(1939)に大坂冬の陣、翌年(1940)に大坂冬の陣、翌年(1941)に大坂冬の陣、翌年(1942)に大坂冬の陣、翌年(1943)に大坂冬の陣、翌年(1944)に大坂冬の陣、翌年(1945)に大坂冬の陣、翌年(1946)に大坂冬の陣、翌年(1947)に大坂冬の陣、翌年(1948)に大坂冬の陣、翌年(1949)に大坂冬の陣、翌年(1950)に大坂冬の陣、翌年(1951)に大坂冬の陣、翌年(1952)に大坂冬の陣、翌年(1953)に大坂冬の陣、翌年(1954)に大坂冬の陣、翌年(1955)に大坂冬の陣、翌年(1956)に大坂冬の陣、翌年(1957)に大坂冬の陣、翌年(1958)に大坂冬の陣、翌年(1959)に大坂冬の陣、翌年(1960)に大坂冬の陣、翌年(1961)に大坂冬の陣、翌年(1962)に大坂冬の陣、翌年(1963)に大坂冬の陣、翌年(1964)に大坂冬の陣、翌年(1965)に大坂冬の陣、翌年(1966)に大坂冬の陣、翌年(1967)に大坂冬の陣、翌年(1968)に大坂冬の陣、翌年(1969)に大坂冬の陣、翌年(1970)に大坂冬の陣、翌年(1971)に大坂冬の陣、翌年(1972)に大坂冬の陣、翌年(1973)に大坂冬の陣、翌年(1974)に大坂冬の陣、翌年(1975)に大坂冬の陣、翌年(1976)に大坂冬の陣、翌年(1977)に大坂冬の陣、翌年(1978)に大坂冬の陣、翌年(1979)に大坂冬の陣、翌年(1980)に大坂冬の陣、翌年(1981)に大坂冬の陣、翌年(1982)に大坂冬の陣、翌年(1983)に大坂冬の陣、翌年(1984)に大坂冬の陣、翌年(1985)に大坂冬の陣、翌年(1986)に大坂冬の陣、翌年(1987)に大坂冬の陣、翌年(1988)に大坂冬の陣、翌年(1989)に大坂冬の陣、翌年(1990)に大坂冬の陣、翌年(1991)に大坂冬の陣、翌年(1992)に大坂冬の陣、翌年(1993)に大坂冬の陣、翌年(1994)に大坂冬の陣、翌年(1995)に大坂冬の陣、翌年(1996)に大坂冬の陣、翌年(1997)に大坂冬の陣、翌年(1998)に大坂冬の陣、翌年(1999)に大坂冬の陣、翌年(2000)に大坂冬の陣、翌年(2001)に大坂冬の陣、翌年(2002)に大坂冬の陣、翌年(2003)に大坂冬の陣、翌年(2004)に大坂冬の陣、翌年(2005)に大坂冬の陣、翌年(2006)に大坂冬の陣、翌年(2007)に大坂冬の陣、翌年(2008)に大坂冬の陣、翌年(2009)に大坂冬の陣、翌年(2010)に大坂冬の陣、翌年(2011)に大坂冬の陣、翌年(2012)に大坂冬の陣、翌年(2013)に大坂冬の陣、翌年(2014)に大坂冬の陣、翌年(2015)に大坂冬の陣、翌年(2016)に大坂冬の陣、翌年(2017)に大坂冬の陣、翌年(2018)に大坂冬の陣、翌年(2019)に大坂冬の陣、翌年(2020)に大坂冬の陣、翌年(2021)に大坂冬の陣、翌年(2022)に大坂冬の陣、翌年(2023)に大坂冬の陣、翌年(2024)に大坂冬の陣、翌年(2025)に大坂冬の陣、翌年(2026)に大坂冬の陣



油絵「鶴ヶ岡城図」(莊内神社 宝物殿藏)

好奇心が生まれてくるはず
慶應義塾大学先端生命科学
研究所の建物と明治から大正
にかけての擬洋風建築、アート
フォーラムを交互に見ながらカ
フェレストランでひと休み。そし
てまた、小道の散策へ。過去と現
在、現在と未来を街のあちこち
に見つけながら、自分だけの道
草旅はいかがでしょう。

ボットまで鶴岡の魅力がぎゅっと詰まった界限は、ちょっとしたワンドーランド。この街の底知れない文化の厚みは、歴史が好きな人も、そうでない人をも魅了する、懐かしさと新しさに満ちています。史跡や歴史、小説の舞台をたずねて街を歩けば、さらなる発見とともに新しい好奇心が生まれてきます。

庄内藩の面影を求めて——
城下町ぐるり、まち歩き。

庄懿公



庄内藩主家の末松家の屋敷跡に建てられ、入り口は当時の武家屋敷の面影を残す門構えで和洋混在の空間。国内ではこの教会でしか見られない世界的にも珍しい「聖母マリア像」があります。



江内藩の御用商人 藤岡 の家商 旧風間家住七 内中主



座敷や茶の間など部屋数十九室、計百八十疋の和室、広大な板の間、大黒柱が当時のままに残っています。



風間家旧別邸「無量光苑 祀迦堂」
豪華の杉材を使った数寄屋風建築で、明治四十三年(1910)、丙申堂の別邸として建てられた
建物。主に来客の接待などに使われていました。

www.IBM.com/ibm-business-continuity



三

出羽の古道へ 自然の懐深く



INTERVIEW & COLUMN

山の案内人

季節の
移ろいを楽しむ

六十里越街道
山船頭人協会 会長
小野寺 良寛さん

高差の激しいこの古道では、夏でも「深緑」の林を抜け山頂に近づくと「鮮やかな新緑」に変わっています。景色の変化は、まるで季節絵巻のように展開しながら私達を癒してくれます。また、春の紅葉と言われるブナの赤い新芽の頃や、秋には葉が落ちた林からしか見ることのできないこの時期だけの絶景!あなたも古道ならではの大自然の魅力をゆっくりと楽しみながら歩いてみませんか。

山船頭人案内のお申し込み・お問い合わせ
●要予約(3週間前) ●有料
あさひむら観光協会 0235-53-3411



六十里越街道
村を訪れてみませんか。

敵しくときに神秘的な自然と、
時間が止まつたかのような山間の
吹を吹き込んでいます。清々しく
戰国時代には軍馬が足跡を
利用されたという記録も残って
います。現在は山船頭人(ガイド)
と有志らが、街道おこしと古道の
整備、自然保護といった保全活
動を行い、五月から十一月の間は
「六十里越街道トレッキング」を開催して、この古道に新しい息

庄内地方と内陸を結ぶ「六十里越街道」は物資や文化を運んだ山形の大動脈で、千二百年以上前に開かれたと伝えられています。鶴岡から松根、十王峠、大網、塞ノ神峠、田麦俣を経て、大峠を越え、志津、本道寺、寒河江を通り山形に至る険しい山岳道路。出羽三山信仰が盛んだった室町・江戸時代には湯殿山詣の道として知られ、全国各地から訪れる参拝者(行者)が白衣に身を包んで歩きました。

戦国時代には軍馬が足跡を刻み、藩政時代には参勤交代に利用されたといふ記録も残っています。現在は山船頭人(ガイド)と有志らが、街道おこしと古道の整備、自然保護といった保全活動を行いつつ、5月下旬~11月上旬に開催して、この古道に新しい息

自然の古道へ

六十里越街道

MAP D-3

高差の激しいこの古道では、夏でも「深緑」の林を抜け山頂に近づくと「鮮やかな新緑」に変わっています。景色の変化は、まるで季節絵巻のように展開しながら私達を癒してくれます。また、春の紅葉と言われるブナの赤い新芽の頃や、秋には葉が落ちた林からしか見ることのできないこの時期だけの絶景!あなたも古道ならではの大自然の魅力をゆっくりと楽しみながら歩いてみませんか。

山船頭人案内のお申し込み・お問い合わせ
●要予約(3週間前) ●有料
あさひむら観光協会 0235-53-3411

●登山上の注意

- 原装と道具 山歩きできる服装と靴と帽子**
スニーカーやズックは危険! 黒い色の服装は避けましょう。
- 歩く時期 5月下旬~11月上旬**
※6月上旬までは残雪の為、案内人(山船頭人)が必要です。

登山靴がオススメ!
熊よけの節は必須!

おいずり
笈摺を着て
みませんか?

江戸時代の
気分で
歩こう!

★セット内容/白表束、菅笠、金剛杖
3点セット(ジンタル)···500円

要予約
※2週間前
5名様以上

日本百選
百選認定

自然
巡り

六十里越街道

MAP D-3

駐車場のご案内

各地点の最寄りの駐車場については下記までお問い合わせください。
あさひむら観光協会 0235-53-3411

自然
巡り

六十里越街道

MAP D-3

高差の激しいこの古道では、夏でも「深緑」の林を抜け山頂に近づくと「鮮やかな新緑」に変わっています。景色の変化は、まるで季節絵巻のように展開しながら私達を癒してくれます。また、春の紅葉と言われるブナの赤い新芽の頃や、秋には葉が落ちた林からしか見ることのできないこの時期だけの絶景!あなたも古道ならではの大自然の魅力をゆっくりと楽しみながら歩いてみませんか。

山船頭人案内のお申し込み・お問い合わせ
●要予約(3週間前) ●有料
あさひむら観光協会 0235-53-3411

初級
さくっと短時間コース
●十王峠~●イタヤ清水~●注連寺
所要時間 45分

中級
出羽の古道満喫コース
●多層民家~●七ツ瀧~●千手ブナ~
●細越峠~●湯殿山参籠所
所要時間 5時間

上級
古道フルコース
所要時間 3日

1日目 ●松根(八幡神社)~●十王峠~●注連寺~●塞ノ神峠~●柳清水~●田麦俣
1泊自宿泊先/田麦莊 0235-54-6328

2日目 ●田麦俣~●多層民家~●越腰坂●独鉢茶屋跡~
●細越峠~●ザンゲ坂~●湯殿山
2泊自宿泊先/湯殿山参籠所 0235-54-6131

3日目 ●湯殿山有料道路料金所~●大峠~●焼山尾根
~●不動院跡~●志津温泉~●志津口留番所跡
0235-58-1455

リュックにいれて旅のおやつに

産直あさひ・グー
どちもち・どちあられ
MAP C-3

古くから伝わる灰汁(あく)抜き法で手間ひまかけて作られる朝日地域・行沢(なめさわ)の名物で、懐かしいふるさとの味わいが人気。旅のおともにおすすめです!

タキタロウ
2mとも3mともいわれる伝説の巨大魚。既知の魚ではない別種の魚類とされ、味は絶品とか!!

大鳥池DATA
Pあり(登山口駐車場)
JR鶴岡駅から泡瀬ダムまで車1時間30分
泡瀬ダムから徒歩3時間
0235-53-2111

タキタロウまつり
毎年5月開催

大鳥池で捕まえた巨大魚の魚拓(昭和40年)/タキタロウ館蔵

六十里越街道で発見! 表情豊かな木々たち

龍神ブナ
千手ブナ
ラブラブナ
メッセージブナ
多層民家

日本百選
百選認定

七ツ瀧公園 MAP D-4

幾筋にも分かれた流れがやがて一つになる直瀑で、日本の滝百選に選ばれました。滝の全景が見渡せる七ツ瀧公園は、新緑と紅葉の名所です。

七ツ瀧公園DATA
冬期間(11月下旬~5月中旬)通行不能 Pあり
JR鶴岡駅からバス1時間田麦俣下車徒歩30分
湯殿山Cから車10分
あさひむら観光協会 0235-53-3411

山船頭人(ガイド)の軽妙な語りが、山歩きを何倍も楽しくしてくれます。

関谷 田麦俣 月山 湯殿山 志津

1,984m 1,504m 1,140m

高さ
1,984m
1,504m
1,140m

至西川町
至志津口留番所跡

5~6月
ユキツバキ
イワウチワ

5~6月
メツセージブナ
獨台跡
細越峠
千手ブナ
ラブラブナ
千手小屋跡
湯殿山参籠所
ザンゲ坂
業師小屋跡
不動院跡
燒山尾根
五色沼
石量
志津口留番所跡

1,984m
1,504m
1,140m

1,984m
1,504m
1,140m

至西川町
至志津口留番所跡

5~6月
ユキツバキ
イワウチワ

5~6月
メツセージブナ
獨台跡
細越峠
千手ブナ
ラブラブナ
千手小屋跡
湯殿山参籠所
ザンゲ坂
業師小屋跡
不動院跡
燒山尾根
五色沼
石量
志津口留番所跡

※二ノ瀧~田代沢
6月上旬まで残雪あり
(ガイドが必要になります)

1日目

六十里越街道[時間に合わせてコースを選択]期間/5月中旬～11月中旬頃まで

P18

山船頭さんと
自然を
満喫しよう

あさひむら観光協会
0235-53-3411

旅中の
おやつ&
お土産

■フルーツタウン直あぐり MAP D-3

オスメイ!立寄りスポット

■フルーツタウン直あぐり

農家から店先に並ぶまで約3時間という新鮮さが人気。ジュース・米粉パンなども製造販売しています。農家レストランも併設。

あさひむら観光協会
0235-57-3300

宿泊/梅林と孟宗の里 湯田川温泉
お宿の紹介→

P23

温泉街
楽しいで
歴史ある温泉街を
浴衣で散策!

■**館岡 DEEPI**

県指定天然記念物
イチヨウ
神社石段の参道にあるイチヨウの巨樹。子宝、子育てに吉利益があると言われています。

ゆずきめ由豆佐完神社
湯田川温泉観光協会
0235-35-4111

2日目

月山八合目の湿原へ [弥陀ヶ原湿原トレッキング] MAP E-3)期間/7月～10月中旬頃まで.....

1日目

奥羽三大古関の一つ「鼠ヶ関」で 海とたわむれ、義経伝説を巡る

P19

マリンパークねずがせき MAP A-4

川砂利を敷き詰めた濁りの少ない「人工海水浴場」、磯遊びができる人口磯浜もあり家族連れに人気!環境省の「快水浴場百選」に選定されており、安心して楽しめる海水浴場です。

シャワー・トイレ・駐車場完備

あつみ観光協会 0235-43-3547

旅中の
おやつ&
お土産

■**館岡 DEEPI**

■**館岡 DEEPI**

■**館島神社と弁天島散策**
源義経が元頼朝に追われ奥羽にのがれる時、舟で岡を越え弁天島へ上陸したと伝えられています。島の岬には館島神社があり、島を一周できる歩道からは日本海が一望できます。

名物「いかの一夜干し」を網焼きで!

■**弁天茶屋**
店内で旬の魚介類や干物の定食を食べることができます。あっさりしようやラーメンも人気です! ■**弁天茶屋** 0235-44-2589

■**道の駅「あつみ」しゃりん** MAP A-3
海に浮かぶ舟をモチーフに建てられたユニークな建物は、温海地域在住の大工さんたちによる力作。旬菜市スペースには毎日旬の農産物、加工品が並びます。海に向かって散策路もあります。

■**道の駅「あつみ」しゃりん** 0235-44-3211

湯の街から城下町へ「秘蔵の雛」めぐり



湯田川温泉旧白幡邸

明治四十三年(1910)から2年3ヶ月を要して建てられた二階建て数寄屋造りの豪華な邸宅がメイン会場。白幡家に残された古い写真を頼りに、当時の雛飾りを再現しています。

休 0235-25-2111



ランチに雛膳
この時期限定の雛御膳は、市内の各飲食店が旬の食材を使って腕を振るうおすすめの御膳。彩り豊かな季節の味わいです。
鶴岡市観光連盟 0235-25-2111

各温泉街を
散策・宿泊

- 湯田川温泉旧白幡邸のお雛まつり
0235-35-4111
or
湯野浜温泉街で各旅館の雛めぐり
0235-75-2258
or
あつみ温泉湯のまち人形めぐり
0235-43-3547

P23-P24

2日目

- 市街地雛巡り◆丙申堂 P12◆三井家蔵敷
◆莊内神社宝物殿 P11◆致道博物館 P14◆各商店街
老舗菓子店で雛菓子購入 | P15-P16

.....

・オススメ!

ランチ編

立寄りスポット

- 富桜ろうそく店 P32
ひなろうそくづくり

水に浮かぶ丸いろうそくにかわいい
らしいお雛さまを絵付けしてオリジナルのひなろうそくを作ってみませ
んか。普通のろうそくもあります。

ひなろうそくづくりDATA

2月1日～4月上旬 9:00～15:00 有料 あり
富桜ろうそく店 0235-22-1070(要予約)



1日目

- スタジオセティック庄内オープンセット MAP E-3
9:00～17:00(4月中旬～9月30日) 9:00～16:00(10月1日～11月中旬)
有料 0235-62-4299

月山高原牧場・月山高原ふれあいハウス MAP E-3

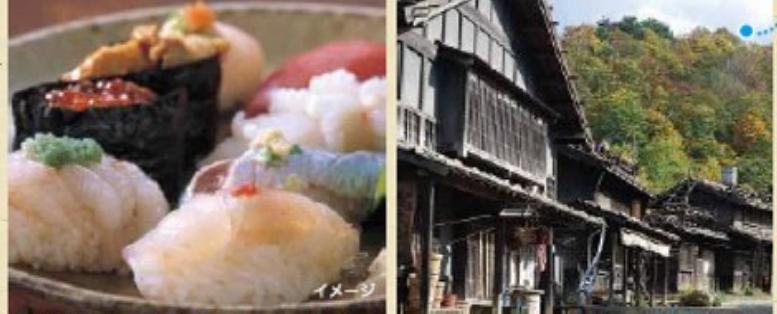
夏期には牛や羊が放牧され、庄内平野を見渡せる展望台やジンギスカンが食べられる、ふれあいハウスがあります。
4月下旬～10月下旬
(月山高原ふれあいハウスは土日祝日のみ営業)
月山高原ふれあいハウス 0235-62-2470

- 宿泊/鶴岡市街地 夕食は市街地まちなかの飲食店へ
鶴岡市観光連盟 0235-25-2111

2日目

- 観光果樹園 さくらんぼ狩り 6月上旬～7月上旬 P31

月山の麓に位置する広大な映画撮影セット。漁村や宿場町、山間集落等が再現され、数々の映画やテレビドラマなどの撮影を行っています。カルチャーを楽しんだ後は、美味しいフルーツ狩り体验でリフレッシュしてください！



市街地寿司店で地魚をたっぷりと!
スタジオセティック庄内オープンセット

庄内浜直送の魚介類と美味しい庄内米のシャリに合わせるにぎり寿司をご堪能ください。

鶴岡市観光連盟 0235-25-2111

- アル・ケッチアーノ
庄内イタリアン
休 月曜日 あり
ランチ 11:30～14:00(L.O.)
ディナー 18:00～21:00(L.O.)
0235-78-7230
- 知恵軒 ちけいけん
農家民宿 レストラン
火曜日 あり
昼食 11:45～14:00
夕食 17:45～21:00(要予約)
0235-57-2130

・オススメ!

ランチ編

立寄りスポット

庄内イタリアン
ランチ 11:30～14:00(L.O.)
ディナー 18:00～21:00(L.O.)
0235-78-7230

農家民宿 レストラン
火曜日 あり
昼食 11:45～14:00
夕食 17:45～21:00(要予約)
0235-57-2130

息をのむような自然の彩り!
新そばまつりで秋三昧!

梵字川渓谷
10月下旬から12月初旬には、鶴岡各地で「新そばまつり」が開催されます。この時にし
か味わえない旬の味をお楽しみください。

新そばまつり
10月下旬から12月初旬には、鶴岡各地で
「新そばまつり」が開催されます。この時にし
か味わえない旬の味をお楽しみください。



弘法大師にまつわる伝
説を数多く残す梵字川に
遊歩道からは息のむよ
うな絶景の渓谷美を堪能
することができます。帰り
は「新そばまつり」で秋の味
をぜひ楽しんでください。

弘法大師にまつわる伝
説を数多く残す梵字川に
遊歩道からは息のむよ
うな絶景の渓谷美を堪能
することができます。帰り
は「新そばまつり」で秋の味
をぜひ楽しんでください。

- ぐるっと360度の紅葉に包まれて
梵字川渓谷の紅葉を愛でる MAP D-3

周遊一例
→落口の滝→田麦侯多農民家→七ツ滝
あさひむら観光協会 0235-53-3411 お土産屋
オスメ!立寄りスポット

■米の粉の滝ドライブイン MAP D-3
お土産や特産物を多数取り
揃え、レストラン、立ちそば、
ラーメンなどお食事処も充実。
0235-54-6311

紅葉
ベストスポット

紅葉のまちなか観光もおすすめ!
夕食はまちなかの飲食店へ
鶴岡市観光連盟 0235-25-2111

宿泊/鶴岡市街地

新そばまつり

ふるさとむら宝谷
新そばまつり MAP D-3

ふるさとむら宝谷 0235-57-4415
鶴岡市御引町合産業課 0235-57-2115

越沢新そばまつり MAP B-4

まやのやかた 0235-47-2430
あつみ観光協会 0235-43-3547

庄内あさひ
新そばまつり MAP D-3

そば処大梵字 0235-53-3413
鶴岡市朝日町合産業課 0235-53-2111
鶴岡市農政課 0235-25-2111

冬の味覚に舌鼓!
雪見酒で一献

【日本海寒鱈まつり】

1月第3日曜日
鶴岡巣座商店街振興組合
0235-22-2202

【由良寒鱈まつり】

1月最終日曜日
寒鱈まつり実行委員会
0235-73-4141

【しゃりん寒鱈まつり】

1月下旬～2月上旬の日曜日
道の駅「あつみ」しゃりん
0235-44-3211

郷土料理・寒鱈汁を堪能
宿泊/湯野浜温泉or由良温泉orあつみ温泉
降る雪を眺めながら癒しの宿でくつろぎます。
P23-P24

郷土料理・寒鱈汁を堪能
宿泊/湯野浜温泉or由良温泉orあつみ温泉
降る雪を眺めながら癒しの宿でくつろぎます。
P23-P24

郷土料理・寒鱈汁を堪能
宿泊/湯野浜温泉or由良温泉orあつみ温泉
降る雪を眺めながら癒しの宿でくつろぎます。
P23-P24

「つけもの処 本長」
漬物観見学 MAP C-2

漬物の老舗、木樽で漬ける伝統的な
手法にごたわる本物の味が人気です。
8:45～16:30(要予約) 1月1日～3日
有料 あり 0235-33-2023

出羽ノ雪酒造資料館 MAP C-2

昔の酒づくりに使用した道具を始め、
古い文献を展示。試飲も可能です。
8:45～16:30(要予約) 1月1日～3日
有料 あり 0235-33-3262

日本海の荒波にもまれて
旨味を増し、海水が冷たく
なるほどに脂ののった鱈を
「寒鱈」と呼びます。郷土料
理「寒鱈汁」は、厳しい冬だ
からこそ味わえる心に染み
で、身も心もあつたまる冬の
旅はいかがでしょう。

日本海の荒波

***庄内砂丘メロン収穫体験**
JA鶴岡営農販売部園芸特産課
0235・29・2828
7月上旬～8月上旬

***ブルーベリー収穫体験**
月山高原鈴木農園
0235・62・4042
7月上旬～8月上旬

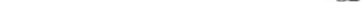
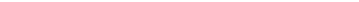
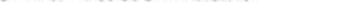
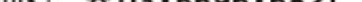
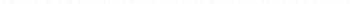
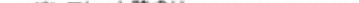
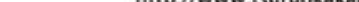
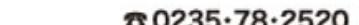
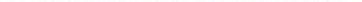
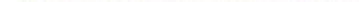
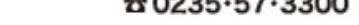
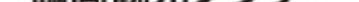
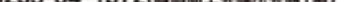
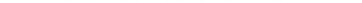
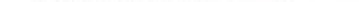
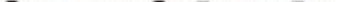
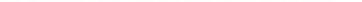
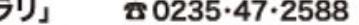
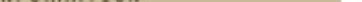
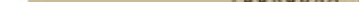
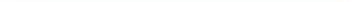
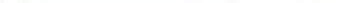
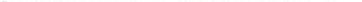
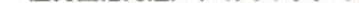
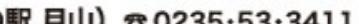
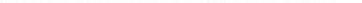
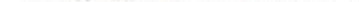
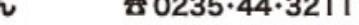
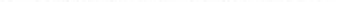
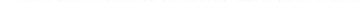
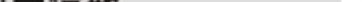
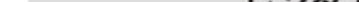
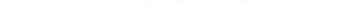
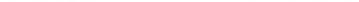
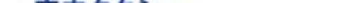
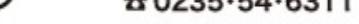
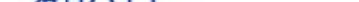
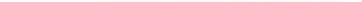
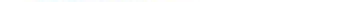
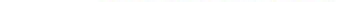
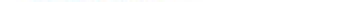
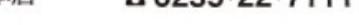
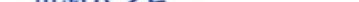
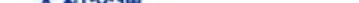
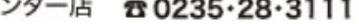
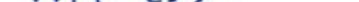
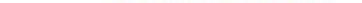
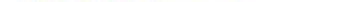
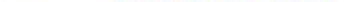
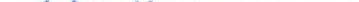
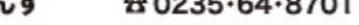
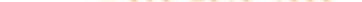
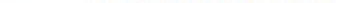
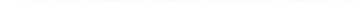
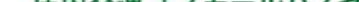
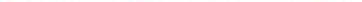
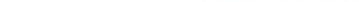
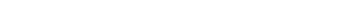
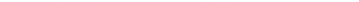
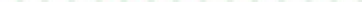
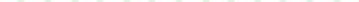
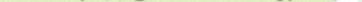
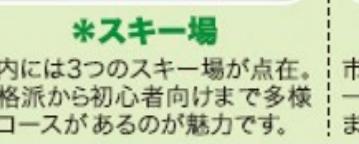
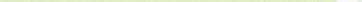
***湯田川孟宗掘り**
湯田川温泉観光協会
0235・35・4111
5月上旬～下旬
※宿泊者限定の体験です。

**もぎたてパクリ！
収穫体験**

導引地域は「フルーツ王国」。栽培する種類は、山形県で一番を誇ります。さくらんぼ、ぶどう、りんご、和なしなど、フルーツ収穫体験が楽しめます！

***櫛引観光果樹園の収穫体験**
観光果樹園紹介所(産直あぐり)
0235・57・3300
6月上旬～11月上旬

鶴岡いろいろ手仕事体験



TSURUOKA EVENT CALENDAR



土産店・産直

鶴岡のお土産や産物が揃う物産店や農家直送の朝どり野菜やフルーツが、季節を彩る産直店。地元の人との会話と地元価格がうれしいオススメのスポットです！

土産

- 鶴岡地区物産協同組合でがんす 0235・64・8701
- 清川屋 ·HOUSE 清川屋 0235・29・3111
- 清川屋鶴岡インター店 0235・28・3111
- 清川屋 鶴岡本店 0235・22・7111

庄内観光物産館

- ふるさと本舗 0235・25・5111

米の粉の滝ドライブイン

- 0235・54・6311

庄内おばこの里 こまぎ

- 0235・35・0234

道の駅

</div

自分流旅メモ

タイトル：

④ タイムスケジュール(j)

■月日

9:00

10:00

11:00

12:00

13:00

14:00

15:00

16:00

17:00

18:00

19:00

■月日

月 日

9:00
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
17:00
18:00
19:00

宿泊先：

TEL:

おみやげチェック表

娘・息子にお菓子2種

娘・息子に お菓子2箱	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

あなただけの満喫プランを作つてみませんか?
プランなしのゆったり旅でもおみやげチェックはお忘れなく!

チェックしよう! →  下記の□は、あてはまる項目にチェックする欄です。是非旅先のメモにご活用ください。

◆行ってみたいモデルコース◆

- | | | | |
|-----------------|-------------------------------|-----|--------------------------|
| コース
A | 湯殿山系の即身仏をめぐり
山伏の道をなぞって羽黒山へ | P8 | <input type="checkbox"/> |
| コース
B | 鶴岡観光プラザを拠点に
城下町散策 | P16 | <input type="checkbox"/> |
| コース
C | 六十里越街道から
月山八合目を巡る古道トレッキング | P21 | <input type="checkbox"/> |
| コース
D | 日本海を楽しみながら加茂水族館へ
ドラマチックライン | P21 | <input type="checkbox"/> |
| コース
E | 湯の街から城下町へ
「秘蔵の雑」めぐり | P29 | <input type="checkbox"/> |
| コース
F | 映画の世界を訪ねて
&さくらんぼ狩り | P29 | <input type="checkbox"/> |
| コース
G | 息をのむような自然の彩り!
新そばまつりで秋三昧! | P30 | <input type="checkbox"/> |
| コース
H | 冬の味覚に舌鼓!
雪見酒で一献 | P30 | <input type="checkbox"/> |

●各種交通機関のご案内●



山形県鶴岡市全域MAP

